

地域と地域の農業を守るために② ～後継者育成に向けた周年雇用と白ネギやアスパラガスの栽培～

農事組合法人ファームなかいいち
代表理事 前田 伸一

1 はじめに

鳥取市南部の河原町■■地区に位置する中山間地域の■■集落は平成29年4月現在で世帯数は38世帯で人口は126人であり、少子高齢化が進み高齢化率は40%と年々高くなっている。

当集落の農業は26世帯の小規模農家で構成され、圃場整備はされているが、傾斜地で小規模耕地であり作業効率は悪く、周辺集落では耕作放棄地も年々増加傾向にある。

平成12年度から「中山間地域等直接支払交付金事業」に取組み、平成22年度からはこの事業を中止していた近隣2集落をこの事業に取り込み、その対象範囲を拡大してきた。

また、平成19年度からは「農地・水・環境保全向上対策事業」にも取組み、環境保全と農業施設の維持・改善に努めてきた。

当地域を包括する■■地区に「■■むらづくり協議会」が平成21年12月に設立され、地域づくりが活発に行われているが、その活動の中で平成24年3月に「■■農地水まもり隊」が結成され■■地区全体の多面的機能直接支払事業の共同活動事業と農業施設維持管理事業に取組んでおり、当集落も参加している。

平成23年4月に「農事組合法人ファームなかいいち」を設立し、平成24年6月に「平成24年度がんばる農家プラン」の同意を受けて、機械等（格納庫・作業庫、田植機、コンバイン、動力噴霧器・皮むき機など）の整備を行うことで、作業の省力化による経営面積の拡大をはかり、水稻（食用米、飼料米等）、白ネギの栽培の収量増や収益の増加を図って経営の安定に努めてきた。

平成28年10月に農業研修生を受け入れているが、研修期間終了後は当農事組合法人の社員として雇用することになっている。

これからの「農事組合法人ファームなかいいち」は中山間地域を生かした水稻を主体に水稻の付加価値（減化学肥料・減農薬）栽培をする環境直接支払への取組、白ねぎの拡大・アスパラガスの新規導入による周年雇用の実現と後継者育成に取り組むために、作業効率の維持向上と製品の付加価値向上のために農業用機械の整備を図ることにより地域農業を支える法人経営の体制整備を行う。

また、集落の女性グループの「なかいい米粉パンクラブ」が米粉をベースにしたピザを焼き、■■地区や河原町の行事で販売している。また、当法人の研修生は米粉のチーズケーキ作りを研究しており、これらの活動も支援していきたい。

そして地域と地域の農業を守るために、良好な農事組合法人の運営を図ることにより地域の活性化に資するよう努める。

2 経営理念

- ①自分たちの住む地域と地域の農業を守る。
- ②農業を活性化させ、雇用と収入の創出を図る。
- ③地域住民の交流を図るとともに、人々を尊重し安心・安全な地域づくりに貢献する。
- ④新たな構想を実現させる積極的な気風を構築する。

3 経営の現状と計画

(1) 経営概要 (平成28年度)

農業法人設立日	平成23年4月12日
農業法人目的	① 農業生産の協業 ②生産性の向上 ③共同の利益の増進
代表理事氏名	前田伸一
事業期間	3月1日～2月28日
構成員	23人
経営(水張)面積	9.49ha(所有地0ha 借地9.49ha)
作業受託面積	0ha
主要作物	水稲9.25ha(食用:6.51ha、飼料2.74ha) 白ネギ0.24ha
農業従事者数	常時雇用者0人

主な栽培品目は、水稲で主食用米6.51ha、飼料用米2.74haを耕作し特別栽培米等にも取り組むとともに白ネギを0.24haを栽培してきた。

生産した米は法人の構成員と集落住民等の個人販売と農協出荷で、白ネギも農協出荷である。

周辺地域は、高齢化と農業後継者の転出等により不耕作地が増加しているが、当集落は農業法人が不耕作地の受託することにより不耕作地の発生を防止している。

当法人は現在の耕作面積の約9.5haを平成32年には10.6haまでの増加を計画しており、農用地の集積は鳥取県農業農村担い手育成機構農地管理事業を活用して行なっている。

現在1人の研修生を受け入れているが、構成員の縁故者でもあり後継者として位置付けるとともに、構成員をはじめその家族へ作業の出役依頼を積極的に行い後継者としての育成を図っていく。

(2) 経営規模等の現状と計画

(単位：a)

区分		H28 (実績)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (計画)	H32 (計画)	
経営 農地	地目	田	田	田	田	田	
	所有地	0	0	0	0	0	
	借入地	949	977	1,032	1,050	1,060	
作物	水 稲	コシヒカリ	108	93	0	0	0
		コシヒカリ (特別栽培)	85	79	190	230	250
		きぬむすめ	370	350	347	297	260
		きぬむすめ (特別栽培)	74	75	120	140	150
		ハクトモチ	13	13	13	13	20
		日本晴 (飼料用米)	275	326	320	320	320
		白ネギ	24	31	32	40	50
	アスパラガス	0	10	10	10	10	

(3) 農業労働力(現状と計画)

農業従事者	年間農業従事日数				
	H28 (現状)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (計画)	H32 (計画)
A	28	15	20	20	20
B	14	10	14	23	29
C	20	15	15	33	41
D	6	6	6	6	6
E	21	10	10	10	10
F	10	7	10	16	20
G	27	10	10	10	15
H	19	6	6	10	20
I	11	10	10	18	22
J	161	130	140	150	180
K	4	5	5	6	18
研修生	0	120	240	240	240
その他	87	120	0	0	0
合計	408	464	486	542	621

農業従事者の年齢構成（現状と課題）

年次	30代	40代	50代	60代	70代
H28（現状）	0	0	0	10	1
H32（目標年）	1	0	0	6	5

（４）農業用機械・施設の整備状況（平成２９年４月現在）

区分	台数等	形式・面積	導入年度	備考
法人所有				
格納庫・作業場	1棟	81.6㎡	H24	がんばる農家プラン事業
籾播き機	1台	クボタ SR2005	H26	
田植機 5条	1台	クボタ EP55-FR	H25	がんばる農家プラン事業
コンバイン 3条	1台	クボタ 320GW-C320	H26	がんばる農家プラン事業
コンプレッサー	1台	東亜 GN15-C-2	H25	がんばる農家プラン事業
皮剥ぎ機	1台	東亜 MT-1D	H25	がんばる農家プラン事業
アルティロ-動噴	1台	丸山 MSV415R2L	H25	がんばる農家プラン事業
生産組合所有借り上げ				
自脱型コンバイン(2条)	1台	クボタ ARN219GDWS50	H21	飼料用米 1ha 程度
乾燥機 (24石)	1台	サケ CDR24-BZR	H8	H29 廃棄予定
乾燥機 (12石)	1台	サケ RMDR12SD	H12	H29 廃棄予定
実行組合所有				
籾摺り機	1台	サケ MPS450DXA	H15	
精米機	1台	カンリュウ SR2230ES	H22	
個人所有借り上げ				
トラクター 30PS	1台		H17 以前	現在は、個人所有機械の借上げ利用を行っているが、いずれも耐用年数を経過した機械であり故障が多くなっている。 個人ごとの過剰投資を防ぎ、軽コスト化を実現するためにも、法人での機械施設整備が急務となっている。
トラクター 17PS	2台			
トラクター 15PS	1台			

4 プラン目標

プラン実施期間 平成29～31年度(3年間)

目標年度 平成32年度

(1) 農地中間管理事業を活用しつつ経営面積の増加を図る。

・目標：経営面積 H28：949a → H32：1,060a

(2) 農業用機械の導入により作業の効率化と収量・品質の高位・平準化と経費の節減を図る。

①米

特別栽培米の取組拡大

・目標：取組面積 H28：159a → H32：400a

②白ネギ

白ネギ栽培面積の拡大及び収量向上

・目標：栽培面積 H28：24a → H32：50a

・目標：収量 H28：994Kg/10a → H32：2,100Kg/10a

③アスパラガス(新規作物)の栽培に取り組み、より複合化をして経営の安定を図る。

・目標：栽培面積 H28：0a → H32：10a

・目標：収量 H28：0kg/10a → H32：1,170kg/10a

5 プラン目標達成のための課題、改善内容及びその効果

(1) 目標達成のための課題

①栽培管理の課題

水稻

- ・機械の借上げ料が高額で生産コストが高い。
- ・小型機械の借上げは効率が悪い。
- ・乾燥機(生産組合から借上げ)の老朽化により不具合、故障が多い。高温乾燥のため米の品質低下を懸念。
- ・収量が低いので増加を図ること。
- ・適時収穫、適時出荷を図ること。
- ・中山間地域で畦畔面積が大きく、その草刈にも大きな労力を必要としていることから畦畔草刈機も必要である。

白ねぎ

- ・軟腐病湿害の発生による収量低下。
- ・借上げの管理機では適時作業に支障がある。
- ・適時収穫、適時出荷を図ること。

アスパラガス

- ・生産安定のためには、施設整備が必要。
- ・収量の増加を図ること。
- ・適時収穫、適時出荷を図ること。

(2) 改善内容及び期待される効果

○水稲特別栽培の拡大

- ・特色ある米作りにより単価の高い直接販売が期待できる。

○トラクターと畦畔草刈機、そして乾燥機の整備を図る。

- ・作業の効率化
- ・コストの低減
- ・適期刈取乾燥による品質の向上

○白ねぎの管理機、溝掘機、根葉切機の導入。

- ・適期作業による収量の安定化。
- ・作業の効率化、排水対策による面積拡大の実現。

○アスパラガスの施設整備

- ・生産性の向上

○具体的な取り組みのスケジュール(案)

事業区分	H 2 9	H 3 0	H 3 1	実施主体	
経営規模の拡大	○		→	法人	
白ネギ栽培	○		→	法人	
オペレーターの育成	○		→	法人	
雇用の拡大	○		→	法人	
減農薬・減化学肥料の水稲栽培	○		→	法人	
機 械 等 の 導 入	乾燥機(2台)	◎		県・市・法人	
	管理機	◎		県・市・法人	
	トラクター(28PS)		◎	県・市・法人	
	畦畔草刈機		◎	県・市・法人	
	アスパラガスのハウス(2棟)			◎	県・市・法人
	プロパンバーナー		◎		県・市・法人
	水中ポンプ		◎		県・市・法人
	防草シート		◎		県・市・法人
	根葉切り機			◎	県・市・法人
	溝掘機		◎		県・市・法人

○：法人による取り組み

◎がんばる農家プランを活用した取り組み

6 支援事業の内容（年次計画）

（単位：円）

導入年度	事業区分	事業費(税抜)	負担区分
H29	乾燥機2台	2,540,740	県 1/2
	管理機	320,000	
H30	トラクター	3,760,000	市 1/6 事業主体 1/3
	畦畔草刈機	235,000	
	プロパンバーナー	36,530	
	水中ポンプ	78,180	
	防草シート	110,650	
	溝掘機	360,000	
H31	根葉切り機	537,038	
	アスパラガスのハウス(2棟)	4,628,000	
合計		12,606,138	

※新規雇用増により県補助率は1/3から1/2に嵩上げ